

品質証明チェックシート（品質）

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容	備考																						
1セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料	その他 (JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。(山砂の場合は、工事中1回/週以上)	粗骨材 碎石 3.0%以下(ただし、粒形判定実線率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント							
			日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																					
			確認箇所																											
			コメント																											
砂の有機不純物試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	標準色より濃いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント									
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														
モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	試料となる砂の上部における溶液の色が標準溶液の色より濃い場合。		圧縮強度の90%以上	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント									
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														
骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント									
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容	備考																						
1セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料	その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	練混ぜ水の水质試験 回収水の場合: JIS A 5308附属書C	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水质が変わった場合。スラッジ水の濃度は1回/日	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で90%以上	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント							
			日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																					
			確認箇所																											
コメント																														
計量設備の計量精度	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材: ±3%以内 混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤: ±3%以内	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント										
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														
			ミキサの練混ぜ性能試験 パッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工程※で1工程当りの総使用量が50m3未満の場合は1工程1回以上の試験、またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工程とは、以下の工程を除く工程とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工程及び特記仕様書で指定された工程)	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の偏差率: 0.8%以下 コンクリート内の量の偏差率: 5%以下 圧縮強度の偏差率: 7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率: 15%以下	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント							
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														
			連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	工事開始前及び工事中1回/年以上。	コンクリート中のモルタル単位容積質量差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差: 5%以下 圧縮強度差: 7.5%以下 空気量差: 1%以下 スランプ差: 3cm以下	○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>日付・チェック</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> <td>／ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	確認箇所							コメント								
日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □																								
確認箇所																														
コメント																														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考									
1セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	製造(プラント)	その他リー(JISマークを使用する表示は除く)	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディーミストコンクリート以外の場合に適用する。	設計図書による	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
			確認箇所																			
	コメント																					
	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2018.503-2018)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	原則0.3kg/m3以下	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
確認箇所																						
									コメント													
<p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>																						

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容	備考																						
1セメント・コンクリート(転圧コンクリート・ダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	単位水量測定	「レディーミキストコンクリート単位水量測定要領(案)(平成16年3月8日事務連絡)」	100m3/日以上の場合: 2回/日(午前1回、午後1回)以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100m3~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m3、40mmの場合は165kg/m3を基本とする。	1)測定した単位水量が、配合設計±15kg/m3の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2)測定した単位水量が、配合設計±15kg/m3を超え±20kg/m3の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m3以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、「15kg/m3以内で安定するまで」とは、2回連続して15kg/m3以内の値を観測することをいう。 3)配合設計±20kg/m3の指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m3以内になるまで全運搬車の測定を行う。 なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は1回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td style="width:10%; text-align: center;">/ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	確認箇所							コメント							
			日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □																					
確認箇所																														
コメント																														
スランプ試験	JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m3~150m3ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミキストコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スランプ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランプ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工程※で1工程当りの総使用量が50m3未満の場合は1工程1回以上の試験、またはレディーミキストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工程当りの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工程とは、以下の工程を除く工程とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工程及び特記仕様書で指定された工程) 	スランプ5cm以上8cm未満: 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2.5cm スランプ2.5cm:許容差±1.0cm	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">日付・チェック</td> <td style="width:10%; text-align: center;">/ □</td> </tr> <tr> <td>確認箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	確認箇所							コメント										
日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □																								
確認箇所																														
コメント																														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
4 プレキャストコンクリート製品(その他)	材料	その他(JISマーク表示されたレディミックスコンクリートを使用する場合は除く)	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	1回/月以上及び産地が変わった場合。	細骨材:10%以下 粗骨材:0.25%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □				
								確認箇所										
								コメント										
						硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	砂、砂利: 製作開始前、1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、碎石: 製作開始前、1回/年以上及び産地が変わった場合。	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
									確認箇所									
									コメント									
						セメントの物理試験	JIS R 5201	1回/月以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
											確認箇所							
											コメント							
						セメントの化学分析	JIS R 5202	1回/月以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
											確認箇所							
											コメント							
			コンクリート用混和材・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6205 JIS A 6206 JIS A 6207	1回/月以上 ただし、JIS A 6202(膨張材)は1回/3ヶ月以上、JIS A 6204(化学混和剤)は1回/6ヶ月以上	JIS A 6201(フライアッシュ) JIS A 5202(膨張材) JIS A 6204(化学混和剤) JIS A 5205(防せい剤) JIS A 5206(高炉スラグ微粉末) JIS A 6207(シリカフェーム)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □				
									確認箇所									
									コメント									
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合: JIS A 5308付属書C	1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	懸濁物質の量:2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/L以下 塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で90%以上	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
									確認箇所									
									コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭・コンクリート杭(根固め)水セメント比試験	比重の測定による水セメント比の推定	試料の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%~70%(中掘り杭工法)、60%(プレボアリング杭工法及びび鋼管ソイルセメント杭工法)とする。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
							コメント									
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭・コンクリート杭(根固め)セメントミルクの圧縮強度試験	セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周固定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	供試体の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とすることが多い。 なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値: 20N/mm ² 設計図書による。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
							コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容							備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／	□		／	□	／
7下層路盤	材料	必須	修正CBR試験 舗装調査・試験法便覧 [4]-68	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	粒状路盤: 修正CBR20%以上(クラッシュラン鉄鋼スラグは修正CBR30%以上) アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が以下に示す数値より小さい場合は30%以上とする。 北海道地方……20cm 東北地方……30cm その他の地方……40cm	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			骨材のふるい分け試験 JIS A 1102	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	JIS A 5001 表2参照	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			土の液性限界・塑性限界試験 JIS A 1205	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	塑性指数PI: 6以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験 舗装調査・試験法便覧 [4]-80	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・CS:クラッシュラン鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	1.5%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
7 下層 路盤	材料	必須	道路用スラッグの呈色判定試験	JIS A 5015 ・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	呈色なし	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
		その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 ・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・再生クラッシュランに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容	備考						
7下層 路盤	施工	必須	現場密度の測定 舗装調査・試験法 便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大 粒径が53mm以下 の場合のみ適用でき る	・締固め度は、個々の測定値が 最大乾燥密度の93%以上を満足 するものとし、かつ平均値につい て以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の 平均値X10が規格値を満足する ものとする。また、10孔の測定値 が得がたい場合は3孔の測定値 の平均値X3が規格値を満足する ものとするが、X3が規格値をはず れた場合は、さらに3孔のデータ を加えた平均値X6が規格値を満 足していればよい。 ・1工事あたり3,000㎡を超える場 合は、10,000㎡以下を1ロットと し、1ロットあたり10個(10孔)で測 定する。 (例) 3,001~10,000㎡: 10孔個 10,001㎡以上の場合、10,000㎡ 毎に10孔個追加し、測定箇所が 均等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合: 6,000 ㎡/1ロット毎に10孔個、合計20 孔個 なお、1工事あたり3,000㎡以下 の場合(維持工事を除く)は、1工 事あたり3個(3孔)以上で測定す る。	最大乾燥密度の93%以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上 歩道箇所:設計図書による		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
							日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		／ □
8 上層路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法便覧[4]-73	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・MS: 粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS: 水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をしい、舗装施工面積が $\leq 10,000\text{m}^2$ あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が $\leq 3,000\text{t}$ 以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をしい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で $1,000\text{m}^2$ 以上 $10,000\text{m}^2$ 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が $\leq 500\text{t}$ 以上 $3,000\text{t}$ 未満(コンクリートでは 400m^3 以上 $1,000\text{m}^3$ 未満) ただし、以下に該当するものについて小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が $\leq 100\text{t}$ 以上のもの	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所											
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧[4]-80	1.5%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	
11 アスファルト舗装	材料	必須	ファイラーの水分試験	JIS A 5008	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	1%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
		その他	ファイラーの塑性指数試験	JIS A 1205	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	4以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			ファイラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧[2]-83	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	50%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			ファイラーの水浸膨張試験	舗装調査・試験法便覧[2]-74	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	3%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
11 アスファルト舗装	材料	その他	ファイラーの剥離抵抗性試験 舗装調査・試験法 便覧[2]-78	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	1/4以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
			コメント													
			製鋼スラグの水浸膨張性試験 舗装調査・試験法 便覧[2]-94	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	水浸膨張比: 2.0%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
			コメント													
			製鋼スラグの密度及び吸水率試験 JIS A 1110	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	SS 表乾密度: 2.45g/cm ³ 以上 吸水率: 3.0%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
			コメント													
			粗骨材のすりへり試験 JIS A 1121	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	すり減り量 砕石: 30%以下 CSS: 50%以下 SS: 30%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所													
			コメント													

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
							日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック
11 アスファルト舗装	材料	その他	高温動粘度試験 舗装調査・試験法便覧[2]-212	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所											
			コメント											
11 アスファルト舗装	材料	その他	60°C粘度試験 舗装調査・試験法便覧[2]-224	・中規模以上の工事: 定期的または随時。 ・小規模以下の工事: 異常が認められたとき。 印字記録の場合: 全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所											
			コメント											
11 アスファルト舗装	材料	その他	タフネス・テナンティ試験 舗装調査・試験法便覧[2]-289	・中規模以上の工事: 定期的または随時。 ・小規模以下の工事: 異常が認められたとき。 印字記録の場合: 全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所											
			コメント											
11 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度(2.36mmフルイ) 舗装調査・試験法便覧[2]-16	・中規模以上の工事: 定期的または随時。 ・小規模以下の工事: 異常が認められたとき。 印字記録の場合: 全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	2.36mmふるい: ±12%以内 基準粒度	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所											
			コメント											

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
			試験項目	試験方法				日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント
11 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法 便覧[2]-16	<p>・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められたとき。 印字記録の場合:全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m²あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m²以上10,000m²未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m³以上1,000m³未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの</p>	75μmふるい:±5%以内基準粒度	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									
		その他	温度測定(アスファルト・骨材・混合物)	温度計による		随時	配合設計で決定した混合温度。	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		／ □	
									確認箇所								
									コメント								
	その他	水浸ホイールラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-65	設計図書による	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	設計図書による	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									
		ホイールラッキング試験	舗装調査・試験法 便覧 [3]-44	設計図書による	アスファルト混合物の耐流動性の確認	設計図書による	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考		
			温度測定(初転圧前)	温度計による	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。		110℃以上	日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所		コメント	日付・チェック
11 アスファルト舗装	舗設現場	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。	110℃以上	試験成績表等による確認	日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
			外観検査(混合物)	目視	随時				日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
			すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧[1]-101	舗設車線毎200m毎に1回		設計図書による			日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
								確認箇所								
								コメント								
								コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント	
12 転圧コンクリート	材料 (JIS マーク表示されたレディミクスコンクリートを使用する場合は除く)	必須	コンシステンシーVC試験		当初	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値: 50秒		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
									確認箇所								
										コメント							
			マーシャル突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指針(案) ※いずれか1方法	当初	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率: 96%		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
										確認箇所							
										コメント							
			ランマー突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指針(案) ※いずれか2方法	当初	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率: 97%		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
										確認箇所							
										コメント							
			含水比試験	JIS A 1203	当初	含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむを得ず行えない場合に適用する。なお測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが望ましい。	設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
										確認箇所							
										コメント							
コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。		設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □				
							確認箇所										
							コメント										

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考						
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／	□	
12 転圧コンクリート	製造 その他 (プラント)(JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	ミキサの練混ぜ性能試験	ハッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	工事開始前及び工事中1回/年以上。	総使用量が50m3未満の場合は1回以上の試験。またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート内のモルタル量の偏差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率:10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率:15%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
			連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502-2013	工事開始前及び工事中1回/年以上。	総使用量が50m3未満の場合は2回以上の試験。またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	
		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディミクストコンクリート以外の場合に適用する。	設計図書による	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	1回/日以上	レディミクストコンクリート以外の場合に適用する。	設計図書による		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／	□
12 転圧コンクリート	施工	必須	コンシステンシーVC試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-344 ※いずれか1方法	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。	修正VC値の±10秒		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										
12 転圧コンクリート	施工	必須	マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法 便覧[3]-344 ※いずれか1方法	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。	目標値の±1.5%		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										
		ランマー突き固め試験				1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。	目標値の±1.5%		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									
コンクリートの曲げ強度試験			JIS A 1106	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回(材令28日)。		・試験回数が7回以上(1回は3個以上の供試体の平均値)の場合は、全部の試験値の平均値が所定の合格判断強度を上まわるものとする。 ・試験回数が7回未満となる場合は、 ①1回の試験結果は配合基準強度の85%以上 ②3回の試験結果の平均値は配合基準強度以上		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考		
							日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所
13 グラスアスファルト舗装	材料	その他	粗骨材のすりへり試験 JIS A 1121	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合は該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	30%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験 JIS A 1122		損失量: 12%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			針入度試験 JIS K 2207		15~30(1/10mm)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			軟化点試験 JIS K 2207		58~68℃	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			伸度試験 JIS K 2207	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合は該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	10cm以上(25℃)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
							確認箇所								
							コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
			試験項目	試験方法				日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
13 グラスアスファルト舗装	フラント	必須	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧[3]-402	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。	貫入量(40℃)目標値 表層:1~4mm 基層:1~6mm	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
								コメント									
			リュエル流動性試験240℃	舗装調査・試験法便覧[3]-407	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。	3~20秒(目標値)	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／
確認箇所																	
コメント																	
ホイールトラックング試験	舗装調査・試験法便覧[3]-44	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。	300以上	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□		
					確認箇所												
					コメント												
曲げ試験	舗装調査・試験法便覧[3]-79	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。	破断ひずみ(-10℃、50mm/min)8.0×10-3以上	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□		
					確認箇所												
					コメント												

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
			試験項目	試験方法				日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント
13 グラスアスファルト舗装	フラント	必須	粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-16	・中規模以上の工事:定期的又は随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められたとき。 印字記録の場合:全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する 基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの	2.36mmふるい: ±12%以内 基準粒度	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
						確認箇所											
						コメント											
							粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-14		75μmふるい: ±5%以内 基準粒度	○	日付・チェック	／	□	／	□	／
							確認箇所										
							コメント										
13 グラスアスファルト舗装	舗設現場	必須	アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧[4]-318	1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの	アスファルト量: ±0.9%以内	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
						確認箇所											
						コメント											
							温度測定(アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	随時	アスファルト: 220℃以下 石粉: 常温~150℃	○	日付・チェック	／	□	／	□	／
							確認箇所										
							コメント										
13 グラスアスファルト舗装	舗設現場	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	随時			日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所								
										コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	
14 路床安定処理工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	当初及び土質の変化したとき。	設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
				確認箇所													
				コメント													
			CBR試験	舗装調査・試験法便覧[4]-227,[4]-230	当初及び土質の変化したとき。	設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
				確認箇所													
				コメント													
施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm: 砂置換法(JIS A 1214)	500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
			確認箇所														
			コメント														
			最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便覧[4]-185突砂法	または、RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)	盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m2を標準とし、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m2未満: 5点 ・500m2以上1000m2未満: 10点 ・1000m2以上2000m2未満: 15点	設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
				確認箇所													
				コメント													

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
			試験項目	試験方法				日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック
14 路床安定処理工	施工	その他	含水比試験	JIS A 1203	500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。	設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
									確認箇所						
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧[1]-284 (ハンゲルマンビーム)	ブルーフローリングでの不良箇所について実施	設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
								確認箇所							
								コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	○	／	○	／		○	／	○
18 補強土壁工	施工	必須	<p>現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。</p> <p>最大粒径≦53mm: 砂置換法 (JIS A 1214)</p> <p>最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法 便覧[4]-256 突砂法</p>	<p>500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。</p> <p>1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。</p> <p>・橋台背面アブローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】 平均92%以上、かつ最小90%以上 【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上、かつ最小95%以上</p>	<p>次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上</p> <p>(締固め試験 (JIS A 1210) A・B法)もしくは90%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 または、設計図書による。</p>		日付・チェック	／	○	／	○	／	○	／	○	
							確認箇所									
							コメント									
			<p>または、「Ri計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」</p>	<p>・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 ・橋台背面アブローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】 平均92%以上、かつ最小90%以上 【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上、かつ最小95%以上</p>	<p>次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法)もしくは92%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法)。 ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 または、設計図書による。</p>		日付・チェック	／	○	／	○	／	○	／	○	
							確認箇所									
							コメント									
			<p>または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による</p>	<p>1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m2を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>	<p>施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。</p>		日付・チェック	／	○	／	○	／	○	／	○	
							確認箇所									
							コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考							
19 吹付工	材料	その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
								確認箇所												
								コメント												
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合: JIS A 5308付属書C	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	懸濁物質の量: 2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量: 1g/L以下 塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で90%以上	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
							確認箇所													
							コメント													
		回収水の場合: JIS A 5308付属書C	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で90%以上	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
					確認箇所															
							コメント													
製造 (プラント)	必須		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	2回/日以上	レディミクストコンクリート以外の場合に適用する。	設計図書による	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
								確認箇所												
								コメント												

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
							日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック
19 吹付工	製造 (プラント) (JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く)	必須	粗骨材の表面水率試験 JIS A 1125	1回/日以上 レディミキストコンクリート以外の場合に適用する。	設計図書による		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
							確認箇所							
								コメント						
	その他	計量設備の計量精度	工事開始前及び工事中1回/6ヶ月以上。	・レディミキストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。 ・急結剤は適用外	水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材: ±3%以内 混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤: ±3%以内	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
							確認箇所							
								コメント						
			ミキサの練混ぜ性能試験 ハッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	工事開始前及び工事中1回/年以上。 ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディミキストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堤、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート内のモルタル量の偏差率: 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率: 5%以下 圧縮強度の偏差率: 7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率: 15%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-T 502-2013	工事開始前及び工事中2回/年以上。	コンクリート中のモルタル単位容積質量差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差: 5%以下 圧縮強度差: 7.5%以下 空気量差: 1%以下 スランプ差: 3cm以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
			試験項目	試験方法	試験基準	摘要			日付・チェック							
19 吹付工	施工	その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m3~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照	±1.5%(許容差)		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
									確認箇所							
									コメント							
			コアによる強度試験	JIS A 1107	品質に異常が認められた場合に行う。		設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
									確認箇所							
									コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／
20 現場吹付法 砕工	施工 その他		塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	コンクリートの打設が午前と午後に来たがる場合は、午前1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2018.503-2018)または設計図書の規定により行う。 ※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照	原則0.3kg/m3以下	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m3~150m3ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照	±1.5%(許容差)	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	設計図書による。		引抜き耐力の80%程度以上。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			コアによる強度試験	JIS A 1107	品質に異常が認められた場合に行う。		設計図書による。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
22 海岸 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ かを実施する。 最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験 法便覧[4]-256 突砂法	築堤は、1,000m ² に1回の割合、ま たは堤体延長20mに3回の割合の 内、測定頻度の高い方で実施す る。 1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の平均値で判定を行う。	・右記の規格値を満たしてい ても、規格値を著しく下回っ ている点が存在した場合 は、監督職員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとす る。	最大乾燥密度の85%以上。 または設計図書に示された 値。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									
			または、 「RI計器を用いた 盛土の締め管理 要領(案)」による	盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。 築堤は、1日の1層あたりの施工 面積を基準とする。管理単位の 面積は1,500m ² を標準とし、1日の 施工面積が2,000m ² 以上の場合、 その施工面積を2管理単位以上 に分割するものとする。1管理単 位あたりの測定点数の目安を以 下に示す。 ・500m ² 未満:5点 ・500m ² 以上1000m ² 未満:10点 ・1000m ² 以上2000m ² 未満:15点	・最大粒径 < 100mmの場合 に適用する。 ・右記の規格値を満たしてい ても、規格値を著しく下回っ ている点が存在した場合 は、監督職員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとす る。	1管理単位の現場乾燥密度 の平均値が最大乾燥密度 の90%以上。または、設 計図書による。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									
			または、 「TS・GNSSを用 いた盛土の締め 管理要領」による	1. 盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位毎 に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場 合でも1管理単位を複数層にまた がらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況 が変わる場合には、新規の管理 単位として取り扱うものとする。	施工範囲を小分割した管理 ブロックの全てが規定回数 だけ締め固められたことを 確認する。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
22 海岸 土工	施工	その他	土の含水比試験	JIS A 1203	含水比の変化が認められたとき。		設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
									確認箇所							
									コメント							
		コーン指数の測定	舗装調査・試験法 便覧[1]-273	トラフィカビリティが悪いとき。		設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
								確認箇所								
								コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
								日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック
23 砂防土工	材料	必須	土の締固め試験 JIS A 1210	JIS A 1210	当初及び土質の変化時。	設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
								確認箇所							
								コメント							
施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法 便覧 [4]-256 突砂法	1,000m3に1回の割合、または設計図書による。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	最大乾燥密度の85%以上。または設計図書に示された値。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
								確認箇所							
								コメント							
			または、「Ri計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による	盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m2未満: 5点 ・500m2以上1000m2未満: 10点 ・1000m2以上2000m2未満: 15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
								確認箇所							
								コメント							
			または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
								確認箇所							
								コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考							
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□				
24 道路 土工	材 料	そ の 他	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	当初及び土質の変化した時。		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□			
									確認箇所											
									コメント											
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	当初及び土質の変化した時。		設計図書による。		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
											確認箇所									
											コメント									
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	当初及び土質の変化した時。		設計図書による。		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
											確認箇所									
											コメント									
			土の圧密試験	JIS A 1217	当初及び土質の変化した時。		設計図書による。		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
											確認箇所									
											コメント									
土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	当初及び土質の変化した時。		設計図書による。		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□				
								確認箇所												
								コメント												

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□		
25 捨石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石:約2.5~2g/cm3 ・軟石 :約2g/cm3未満	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										
				岩石の吸水率	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :5%未満 ・準硬石:5%以上15%未満 ・軟石 :15%以上	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :4903N/cm2以上 ・準硬石:980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 ・軟石:980.66N/cm2未満	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										
		その他		岩石の形状	JIS A 5006	5,000m3につき1回の割で行う。 ただし、5,000m3以下のものは1工事2回実施する。 500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。	うすつべらなもの、細長いものであってはならない。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／
26 コンクリートダム	材料 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	工事開始前、工事中1回/月以上	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
								コメント									
				砂の有機不純物試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／
					確認箇所												
						コメント											
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	試料となる砂の上部における溶液の色が標準溶液の色より濃い場合。	圧縮強度の90%以上	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
						確認箇所											
						コメント											
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。(山砂の場合は、工事中1回/週以上)	粗骨材:1.0%以下。ただし、碎石の場合、微粒分量試験で失われるものが碎石粉のときには、3.0%以下。 細骨材: ・7.0%以下。ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下。 ・砕砂の場合、微粒分量試験で失われるものが碎石粉であって、粘土、シルトなどを含まないときには9.0%以下。ただし、同様の場合で、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
						確認箇所											
						コメント											

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工程	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	
26 コンクリートダム	製造(プラント)(JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	計量設備の計量精度	設計図書による	・レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	水:±1%以内 セメント:±1%以内 骨材:±3%以内 混和材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤:±3%以内	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所														
			コメント														
			ミキサの練混ぜ性能試験	パッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	工事開始前及び工事中1回/年以上。	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の偏差率:0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率:5%以下 圧縮強度の偏差率:7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率:10%以下 コンシステンシー(スランプ)の偏差率:15%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
確認箇所																	
コメント																	
			連続ミキサの場合: 土木学会標準 JSCE-I 502-2013	工事開始前及び工事中1回/年以上。	コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
確認箇所																	
コメント																	

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□
22 海岸 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。 最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法 便覧[4]-256 突砂法	築堤は、1,000m ² に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	最大乾燥密度の85%以上。または設計図書に示された値。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									
			または、 「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による	盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位的面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満: 5点 ・500m ² 以上1000m ² 未満: 10点 ・1000m ² 以上2000m ² 未満: 15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。または、設計図書による。	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									
			または、 「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							確認箇所									
							コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
								日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント
23 砂防土工	材料	必須	土の締固め試験 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	JIS A 1210	当初及び土質の変化時。	設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
									確認箇所								
										コメント							
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JIS A 1214)	1,000m3に1回の割合、または設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	最大乾燥密度の85%以上。または設計図書に示された値。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
				最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4]-256 突砂法						確認箇所							
											コメント						
			または、「Ri計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による	盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m2未満: 5点 ・500m2以上1000m2未満: 10点 ・1000m2以上2000m2未満: 15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・右記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									
			または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□		
24 道路 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれ かを実施する。	または、 「RI計器を用いた 盛土の締固め管理 要領(案)」	盛土を管理する単位(以下「 管理単位」)に分割して管理 単位ごとに管理を行うものと する。 路体・路床とも、1日の1層あ たりの施工面積を基準とす る。管理単位の面積は 1,500m ² を標準とし、1日の施 工面積が2,000m ² 以上の場 合、その施工面積を2管理 単位以上に分割するものと する。1管理単位あたりの測 定点数の目安を以下に示 す。 ・500m ² 未満:5点 ・500m ² 以上1000m ² 未満: 10点 ・1000m ² 以上2000m ² 未満: 15点	・最大粒径<100mmの場合 に適用する。 ・右記の規格値を満たしてい ても、規格値を著しく下回っ ている点が存在した場合 は、監督職員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとす る。 【砂質土】 ・路体:次の密度への締固め が可能な範囲の含水比にお いて、1管理単位の現場乾燥 密度の平均値が最大乾燥度 密度の92%以上(締固め試験 (JIS A 1210)A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部: 次の密度への締固めが可能 な範囲の含水比において、1 管理単位の現場乾燥密度の 平均値が最大乾燥度密度の 97%以上(締固め試験(JIS A 1210)A・B法)もしくは92%以 上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。 ただし、JIS A1210 C・D・E法で の管理は、標準の施工仕様よ りも締固めエネルギーの大き な転圧方法(例えば、標準より も転圧力の大きな機械を使用 する場合や1層あたりの仕上 り厚を薄くする場合)に適用す る。 【粘性土】 ・路体、路床及び構造物取付 け部:自然含水比またはトラ フィカビリティーが確保できる 含水比において、1管理単位 の現場空気間隙率の平均値 が8%以下。 ただし、締固め管理が可能な 場合は、砂質土の基準を適用 することができる。 または、設計図書による。	日付・チェック 確認箇所 コメント	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
								／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
			または、 「TS・GNSSを用い た盛土の締固め管 理要領」による	1. 盛土を管理する単位(以 下「管理単位」)に分割して 管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に 及ぶ場合でも1管理単位を 複数層にまたがらせること はしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質 状況が変わる場合には、新 規の管理単位として取り扱う ものとする。	施工範囲を小分割した管理ブ ロックの全てが規定回数だけ 締め固められたことを確認す る。	日付・チェック 確認箇所 コメント	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□		
							／	□	／	□	／	□	／	□				

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□		
25 捨石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石:約2.5~2g/cm3 ・軟石 :約2g/cm3未満	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
								確認箇所										
								コメント										
		岩石の吸水率	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :5%未満 ・準硬石:5%以上15%未満 ・軟石 :15%以上	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／		□
							確認箇所											
							コメント											
	岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。 ・500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 :4903N/cm2以上 ・準硬石:980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 ・軟石:980.66N/cm2未満	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□		
						確認箇所												
						コメント												
	その他			岩石の形状	JIS A 5006	5,000m3につき1回の割で行う。 ただし、5,000m3以下のものは1工事2回実施する。 500m3以下は監督職員承諾を得て省略できる。	うすつべらなもの、細長いものであってはならない。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
							日付・チェック	確認箇所	コメント							
27 覆工コンクリート(NATM)	材料(JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
								確認箇所								
									コメント							
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
								確認箇所								
								コメント								
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	圧縮強度の90%以上	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
								確認箇所								
								コメント								
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
								確認箇所								
								コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	
27 覆工コンクリート(NATM)	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	0.2mm		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
								コメント									
	その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5ヶ所実施。材齢28日～91日の間に試	再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする。	設計基準強度		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
								コメント									
その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討を行う。圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。	設計基準強度		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
							確認箇所										
							コメント										

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考								
28 吹付けコンクリート (NATM)	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	アルカリ骨材反応抑制対策について(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号)	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号)」	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□				
								確認箇所														
								コメント														
	その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102		細骨材は採取箇所または、品質の変更があることに1回。ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があることに1回。		設計図書による。		日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
									確認箇所													
									コメント													
									骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104												
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110					絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下	○	日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
										確認箇所												
										コメント												
										骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308					粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	○	日付・チェック	/	□		/
		確認箇所																				
		コメント																				

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／	□
30 路上再生路盤工	材料	必須	修正CBR試験 舗装調査・試験法 便覧[4]-68	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する 基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する 基層および表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについて小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	修正CBR20%以上	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□			
							確認箇所											
							コメント											
			土の粒度試験	JIS A 1204	当初及び材料の変化時		舗装再生便覧参照 表表-3.2.8路上再生路盤骨 材用素材の望ましい粒度範 囲による		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									
			土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び材料の変化時		設計図書による。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
									確認箇所									
									コメント									
土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	当初及び材料の変化時		塑性指数PI: 9以下		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□				
						確認箇所												
						コメント												

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
								日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント	
31 路上 表層再 生工	材料	必須	既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧[4]-318	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
			確認箇所															
			コメント															
				既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧[2]-16	当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
				確認箇所														
				コメント														
				新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	当初及び材料の変化時		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
				確認箇所														
				コメント														
施工	必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧[3]-218	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の96%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。 ・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 (例) 3,001~10,000㎡: 10個 10,001㎡以上の場合は、10,000㎡毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合: 6,000㎡/1ロット毎に10孔、合計20孔 なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合 (維持工事を除く)は、1工事あたり3孔以上で測定する。	空隙率による管理でもよい。	基準密度の96%以上 X10 98%以上 X6 98%以上 X3 98.5%以上	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
			確認箇所															
			コメント															

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／	□
32 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	4以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所															
			コメント															
			フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法 便覧[2]-83	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	50%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所															
			コメント															
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法 便覧[2]-94	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前		水浸膨張比: 2.0%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所															
			コメント															
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前		碎石・玉砕、製鋼スラグ(SS): 30%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
			確認箇所															
			コメント															

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／	□
32 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	その他	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装: 同一配合の合材が100t以上のもの	損失量:12%以下	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
			粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	軟石量:5%以下		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／		□
			針入度試験	JIS K 2207	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	40(1/10mm)以上		○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／		□
			軟化点試験	JIS K 2207	・中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	80.0℃以上	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考				
							日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□	／
32 排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	必須	アスファルト量抽出粒度分析試験 舗装調査・試験法便覧[4]-318	・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められたとき。 印字記録の場合:全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m ² あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000m ² 以上10,000m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400m ³ 以上1,000m ³ 未満)。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のもの	アスファルト量:±0.9%以内	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
			コメント														
			温度測定(アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	随時	配合設計で決定した混合温度。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							○	確認箇所									
							○	コメント									
32 排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	その他	水浸ホイールトラッキング試験 舗装調査・試験法便覧[3]-65	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
								確認箇所									
			コメント														
			ホイールトラッキング試験 舗装調査・試験法便覧[3]-44	設計図書による。	アスファルト混合物の耐流動性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							○	確認箇所									
							○	コメント									
			ラベリング試験 舗装調査・試験法便覧[3]-18	設計図書による。	アスファルト混合物の耐摩耗性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
							○	確認箇所									
							○	コメント									

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容							備考	
								日付・チェック	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
32 排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	その他	カンタプロ試験 舗装調査・試験法便覧[3]-110	設計図書による。	アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	<input type="checkbox"/>							
								確認箇所								
								コメント								
	舗設現場	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)	140~160℃		日付・チェック	<input type="checkbox"/>						
									確認箇所							
									コメント							
	舗設現場	必須	現場透水試験	舗装調査・試験法便覧[1]-154	1,000m ² ごと。		X10 1,000mL/15sec以上 X10 300mL/15sec以上(歩道箇所)		日付・チェック	<input type="checkbox"/>						
									確認箇所							
									コメント							
	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧[3]-224	*締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 *締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。 *1工事あたり3,000m ² を超える場合は、10,000m ² 以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。 (例) 3,001~10,000m ² :10孔 10,001m ² 以上の場合、10,000m ² 毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。 例えば12,000m ² の場合:6,000m ² /1ロット毎に10孔、合計20孔 なお、1工事あたり3,000m ² 以下の場合(維持工事を除く)は、1工事あたり3孔以上で測定する。	基準密度の94%以上。 X10:96% 以上 X6: 96% 以上 X3: 96.5%以上 歩道箇所:設計図書による		日付・チェック	<input type="checkbox"/>							
								確認箇所								
								コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考		
							日付・チェック	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
33 プラント再生舗装工	プラント	必須	粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-16	抽出ふるい分け試験の場合:1~2回/日 ・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められるとき。 印字記録の場合:全数	2.36mmふるい:±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm:±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	○	日付・チェック	<input type="checkbox"/>						
							○	確認箇所							
							○	コメント							
		任意	粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧[2]-16	抽出ふるい分け試験の場合:1~2回/日 ・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められるとき。 印字記録の場合:全数	75μmふるい:±5%以内 再アス処理の場合、75μm:±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	○	日付・チェック	<input type="checkbox"/>						
							○	確認箇所							
							○	コメント							
34 再生アスファルト	再生アスファルト	必須	再生アスファルト量	舗装調査・試験法便覧[4]-318	抽出ふるい分け試験の場合:1~2回/日 ・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が認められるとき。 印字記録の場合:全数	アスファルト量:±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファルト量:±1.2%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	○	日付・チェック	<input type="checkbox"/>						
							○	確認箇所							
							○	コメント							
		その他	水浸ホイールラッキング試験	舗装調査・試験法便覧[3]-65	設計図書による。	耐水性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	<input type="checkbox"/>					
								○	確認箇所						
								○	コメント						

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考					
								日付・チェック	／	□	／	□	／		□	／	□		
33 プラント再生舗装工	プラント	その他	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧[3]-44	設計図書による。	耐流動性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
										確認箇所									
										コメント									
				ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧[3]-18	設計図書による。	耐磨耗性の確認	設計図書による。	○	日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
											コメント								
舗設現場	必須		外観検査(混合物)	目視	随時				日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□		
											コメント								
				温度測定(初転圧前)	温度計による。	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)			日付・チェック	／	□	／	□	／	□	／	□	
												コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考	
							日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		／ □
33 プラント再生舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定 舗装調査・試験法 便覧[3]-218	<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上(再アス処理の場合は基準密度の93%以上)を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。</p> <p>(例) 3,001~10,000㎡: 10孔 10,001㎡以上の場合、10,000㎡毎に10孔追加し、測定箇所が均等になるように設定すること。 例えば12,000㎡の場合: 6,000㎡/1ロット毎に10孔、合計20孔 なお、1工事あたり3,000㎡以下の場合(維持工事を除く)は、1工事あたり3孔以上で測定する。</p>	<p>基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上 再アス処理の場合、基準密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上</p>		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
							確認箇所							
							コメント							

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者
------	-------	-------

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
			試験項目	試験方法				日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント		日付・チェック	確認箇所	コメント
34 工場製作工 (鋼橋用鋼材)	材料	必須	外観・規格 (主部材)	現物照合、帳票確認	現物とミルシートの整合性が確認できること。 規格、品質がミルシートで確認できること。		○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □			
								確認箇所									
								コメント									
				機械試験(JIS マーク表示品以外かつミルシート照合不可な主部材)	JISによる	JISによる	試験対象とする材料は監督職員と協議のうえ選定する。		日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
									確認箇所								
									コメント								
				外観検査 (付属部材)	目視及び計測	JISによる			日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □		
									確認箇所								
									コメント								

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分	試験項目・試験方法	試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容							備考		
							日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック	確認箇所	コメント	日付・チェック		確認箇所	コメント
36 溶接工	施工	必須	引張試験:開先溶接	JIS Z 2241	試験片の形状:JIS Z 3121 1号 試験片の個数:2	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	引張強さが母材の規格値以上。	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所													
			コメント													
36 溶接工	施工	必須	型曲げ試験 (19mm未満裏曲げ) (19mm未満側曲げ):開先溶接	JIS Z 3122	試験片の形状:JIS Z 3122 試験片の個数:2	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	亀裂が生じてはならない。 ただし、亀裂の発生原因が「ローホールあるいははスラク 巻き込みであることが確認され、かつ、亀裂の長さが3mm以下の場合には許容するものとする。	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所													
			コメント													
36 溶接工	施工	必須	衝撃試験:開先溶接	JIS Z 2242	試験片の形状:JIS Z 2242 Vノッチ 試験片の採取位置:「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.2衝撃試験片 試験片の個数:各部位につき3	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	溶接金属および溶接熱影響部で母材の要求値以上(それぞれ3個の平均値)	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所													
			コメント													
36 溶接工	施工	必須	マクロ試験:開先溶接	JIS G 0553に準じる	試験片の個数:1	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	欠陥があつてはならない	○	日付・チェック	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	／ □	
			確認箇所													
			コメント													

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分 必須	試験項目・試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績 表等による 確認	チェック内容						備考	
			試験項目	試験方法												
37 中層混合処理 ※全面改良の場合に適用。混合処理改良体(コラム)を造成する工法には適用しない	材料	必須	土の含水比試験	JIS A 1203	当初及び土質の変化したとき	配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
									確認箇所							
									コメント							
			土の湿潤密度試験	JIS G 0191	当初及び土質の変化したとき	配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
									確認箇所							
									コメント							
			テーブルフロー試験	JIS R 5201	当初及び土質の変化したとき	配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
									確認箇所							
									コメント							
土の一軸圧縮試験 (改良体の強度)	JIS A 1216	当初及び土質の変化したとき	配合を定めるための試験である。	設計図書による。		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □				
						確認箇所										
						コメント										

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分 その他	試験項目・試験方法		試験基準・摘要		規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考			
			試験項目	試験方法					日付・チェック									
37 中層混合処理 ※全面改良の場合に適用。混合処理改良体(コラム)を造成する工法には適用しない	材料	その他	土粒子の密度試験	JIS A 1202	土質の変化したとき必要に応じて実施する。		設計図書による。		日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □			
									確認箇所									
									コメント									
			土の粒度試験	JIS A 1204	土質の変化したとき必要に応じて実施する。		設計図書による。				日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
											確認箇所							
											コメント							
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	土質の変化したとき必要に応じて実施する。		設計図書による。				日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	
											確認箇所							
											コメント							
土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	土質の変化したとき必要に応じて実施する。		設計図書による。				日付・チェック	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □				
								確認箇所										
								コメント										

品質証明チェックシート(品質)

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	品質証明者	
------	-------	-------	--

工種	種別	試験区分 その他	試験項目・試験方法		試験基準・摘要	規格値	試験成績表等による確認	チェック内容						備考								
			試験項目	試験方法				日付・チェック														
37 中層混合処理 ※全面改良の場合に適用。混合処理改良体(コラム)を造成する工法には適用しない	材料	その他	土の圧密試験	JIS A 1217	土質の変化したとき必要に応じて実施する。		設計図書による。		日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
									確認箇所													
										コメント												
			土懸濁液のpH試験	JGS 0211	有機質土の場合は必要に応じて実施する		設計図書による。		日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
										確認箇所												
										コメント												
			土の強熱減量試験	JGS 0221	有機質土の場合は必要に応じて実施する		設計図書による。		日付・チェック	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
							確認箇所															
							コメント															

